

授業概要 (シラバス)

専門学校日本ホテルスクール

■科目基本情報

科目番号	GS102	分類	講義科目
授業科目名	異文化コミュニケーション	英文授業科目名	Intercultural Communication
年度	2024年度	年次	昼間部 1年 ホテル科
開講学期	通年	授業の方法	講義科目
単位数	2単位	年間授業時間数	28.8時間
科目区分	一般教育科目	授業コマ数	24コマ
担当教員名	池本 昌子	実務経験なし	備考
経歴			

■授業・科目情報

学習目標	『多様性の尊重』をテーマに、それぞれの独自の文化や言語、宗教、価値観などの違いを認識し、理解することが、異文化コミュニケーションには必要であるということを再認識する。		
教科書	『外客接遇の基礎』一般財団法人日本教育センター編		
授業計画	回数	内容	
	1	オリエンテーション: 授業の目標「多様性の尊重・異文化理解」←この授業がなぜ必要か?	
	2	第1章:『外客接遇とは?』: 訪日外国人数の推移⇒コロナ禍後のインバウンドデータも表示	
	3	2の続き: 外客接遇の大切さ、今後の外客接遇には、何が必要か?	
	4	第3章:『世界の言語』: 世界で使われている言語の数は? 世界の主要言語は?	
	5	しぐさの違い: コミュニケーションのツールは言語としぐさ⇒しぐさの果たす役割	
	6	第4章:『世界の宗教』世界の主要宗教の基本知識の習得	
	7	宗教上のタブー: 特に、イスラム教の食文化への影響は、外客接遇に重要である。	
	8	第5章:『世界の社会慣習』: 各国の国民性⇒それぞれの国民性の特徴を理解、認識する	
	9	8の続き: 社会慣習・宗教・自然環境などが国民性に大きく影響していることを認識する	
	10	『各国の家族観』: 大家族から核家族へさらには、血縁のつながりのない家族という価値観にも言及	
	11	前期のまとめ: 様々な文化・宗教・言語など多様性の尊重の重要性・必要性を認識する	
	12	まとめ/試験	
	13	第5章の続き:『各国の結婚観』⇒結婚観も次第に変わりつつある中で、宗教の影響が色濃く反映されている	
	14	『各国の仕事観』⇒働き方・休み方改革等について、仕事観の違いを確認する	
	15	自分たちの働き方、休み方などについても考察する⇒グループディスカッション	
	16	第6章:『世界の生活習慣』世界の食事作法・お風呂の文化・トイレの文化などの違いについて検証	
	17	日本の温泉など公共浴場での、外客の受け入れについて⇒グループディスカッション	
	18	様々な違いを認識したうえで、今後、インバウンドに対してどう対応していく必要があるか?	
	19	実習やアルバイト等の体験を踏まえて、今後外客接遇に必要なことは何かを再認識する	
	20	日本を知ろう: 日本の魅力・文化・知識を再認識しよう!	
	21	日本の魅力は? ⇒ユネスコに登録されている日本の世界遺産とは?	
	22	外国人は、日本のどんなところに魅力を感じているか? ⇒日本の魅力を彼らに伝えるには?	
	23	後期試験範囲の確認・まとめ・対策⇒多様性の尊重とは?	
	24	まとめ/試験	
授業の進め方	基本的には、パワーポイントで、各単元のポイントを説明しながら、『多様性の尊重』とはどういうことか、具体的な例を提示しながら、学生の理解を導く。多種多様な価値観や、文化、宗教、言語があることを理解してもらい、実際、外客接遇にいかんにか反映させていけるかをグループワークでコミュニケーションの大切さを認識してもらえるように展開していく。さらに、世界に視野を広げることを目指す。さらに小テストを実施して、内容理解の定着を図る。		
試験の実施方法	前後期各1回 試験期間に設定し、形式は文書試験とする。		
成績評価方法	本校の規定に基づき、全科において共通評価基準にて算出する。 ①試験得点 = 50% (10ポイント) ②出席率 = 50% (10ポイント) 上記の2つの項目をそれぞれ10ポイント(合計20ポイント)に置き換えて、そのポイントに応じてA,B,C,D,F評定を決定する。 尚、前提基準として①試験全体平均点の50%未満。または②出席率の50%未満に該当する場合には「F」評価とするが、通年教科の後期学年末の評価については、前期および後期全体の状況をもって算出する。		
関連科目	ホスピタリティー・ツーリズム 国際情勢1		
参考書	『世界比較文化事典』『なるほど知図帳日本・世界』『日本』『池上彰の宗教がわかれば世界が見える』『日本人ジョーク集』		
学生へのメッセージ	『多様性の尊重』がグローバル化に伴い、当たり前になりつつある昨今、その言葉の本質をしっかりと理解して、外客接遇に生かしてほしいと思います。そのためには、それぞれの文化や宗教、価値観の基本的な知識を理解したうえで、お互いを尊重しあえるようになることが大切です。これらの異文化理解を深め、異文化コミュニケーションが円滑に行われるようにこの授業を役立ててほしいと思います。		

以上